『積極的に脂肪乳剤を使いながら、適正な静脈栄養を、もっと積極的に実施しよう』

　ゴールデンウィークから始まった 5 月でしたが、大学での講義の準備に終始した、そんな感じでした。臨床医学、臨床栄養学Ⅱの講義に加え、看護学部での講義、栄養学部 1 年生への講義、栄養学部の教官への講義など、その準備で大変でした。それぞれに講義の目的が違うので。さらに、星薬科大学の臨床栄養学の講義も始まりました。

　5 月 9 日と 10 日は神戸での JSPEN 学術集会。非会員ですが、参加しました。いつもの時刻に家を出ると、神戸国際会議場には早く着いてしまうので、1 日目は三宮の神戸市東遊園地、2 日目は神戸市北公園を散策してから会場へ。1 日目は貿易センター駅からポートライナーに乗ったところ、満員で、何本かやり過ごしました。2 日目はポートターミナル駅で降りて、神戸北公園を散策し、そのまま、会場の最寄り駅、市民広場まで歩きました。結構な距離でしたが、快適な散歩でした。学会には気楽に参加。いろんな人に会いました。まあ・・いろいろでした。展示会場をうろうろ。昼飯はランチョンセミナーには入れなかったので、出店の CoCo 壱カレーやたこ焼きを食べました。出店の方々、売上が少ない、赤字だと嘆いていました。1 日目の夜、西口先生、北出先生、増本先生、4 人で中華料理。本当に久しぶり。特に増本先生との会食は何年ぶり？本当にうれしい時間でした。鹿屋の池田病院の田中さんと園田さんに会い、一緒に写真を撮ったりしました。高崎の小川先生や福岡の林くんにも会いました。

↑千里金蘭大学の職員としては、やはり、今号も最初に出す写真は、きれいに整備された校庭の写真です。つつじ？サツキ？今だによくわかっていないのですが、おそらく、サツキです。非常にきれいです。管理している方々がすごいのだと思います。

　5 月 13 日は、大塚製薬工場と共催の PEN の会。私や西口先生は高齢なので顧問。研修医に対する臨床栄養教育の会（セミナー）で、参加者は 50 人までとしていたのに、残念、20 人。この日はレジナビ（レジデントの病院探しサポートの会？）で、研修医がそっちに行ってしまったから、参加者が少なかったのだそうですが。少ない参加者、講師陣は大勢、ハンズオンをしてくれる企業も例年通り。参加した研修医は非常にいい勉強になったことでしょう。しかし、大事なのはこれから。臨床栄養の勉強もしてください。

↑千里金蘭大学の学食で私が食べたものです。うどんは結構、おいしいです。左下はカルビ丼、右下は油ラーメン。これ、初めて食べたんじゃないかな。お味はまあまあです。13 時に学食へ行くことにしているので、日替わりメニューの品は無くなっていることがありますが、仕方ありませんね。

　19 日には「関西栄養管理技術研究会」の世話人会。会場は新大阪駅のそば。千里金蘭大学からは不便です。大学から阪急北千里駅まで歩き、南方駅下車、そこから会場まで徒歩。よく歩きました。11 月 18 日の第 26 回研究会についての話し合い。テーマ、演題募集、特別講演、なかなか決まらず、21 時半、ぎりぎりまで。結局、テーマは「栄養管理のスキルを取り戻そう」、特別講演は私、となりました。どんな話をしようか、思案中です。でも、いろいろ看護の現場の話が聞けて非常に有意義な会でした。

↑3 年ぶりでしょうか。星薬科大学へ臨床栄養学の講義に行きました。臨床栄養学は選択科目になっていて、いろいろ事情はあるのですが、なんと、受講生はオンリーワンでした。マンツーマンで 90 分講義を 2 回やりました。一人の受講生に 90 分講義を 2 回・・・。終わってから、受講してくれた藤澤くんと記念写真を撮りました。

翌日は旧大阪大学第一外科の同門会、汲泉会。なつかしい方々に会いたいと思って参加しました。小沢賞を受賞された方々の講演、教授になられた方々の講演を拝聴しました。残念ながら懇親会なし。目的とした、第一外科の前、前、前教授の川島康生先生を囲んでの「第一外科赤ネクタイ」写真を撮ることができました。前教授の澤先生、前々教授の松田先生にも会えました。前日の 19 日には 6 回目のコロナワクチンを接種。講演を拝聴していると、なんとなく、関節痛。微熱があったようです。翌日には解熱していました。

5 月 23 日には、3 年ぶりに星薬科大学へ臨床栄養の講義に行きました。選択科目で、受講者は少ないと聞いていたのですが、コロナが開けての対面講義だからと東京へ行きました。しかし、なんと、受講生はたった一人。ええ！一人？でも、講義はしなくてはいけません。一人の受講生のために、90 分講義を、2 時限、やりました。

千里金蘭大学での勤務はほぼ 2 か月が経過。慣れた？よくわかりません。昼飯は 13 時頃に学食へ。学生はほとんどいないので、ゆったり食べられます。一度、学食で栄養学部の学生に声をかけられました。ちょっと世間話。メニューは、それなりに慣れてきました。講義は、相変わらず。学生の態度も相変わらず。いろいろわかってきました。私自身は臨床医学と臨床栄養学のバランスで悩んでいます。5 月 18 日には栄養学部の教授会が終わってから、栄養学部の方々に「病院における管理栄養士の役割」について講演しました。病院で管理栄養士の役割が大きくなっている、そんな内容としました。

5 月 28 日、日曜日。千里金蘭大学のオープンキャンパス。オープンキャンパスって何？何のため？だったのですが、かなり理解できてきました。要するに、高校生の勧誘です。どの大学も競って開催しているとのこと。私も、オープンキャンパスに来てくれた高校生、そして親御さんに、ここはいい大学ですよ、と宣伝しました。まあ、私が勧誘しても大した力にはなりませんけど。でも、千里金蘭大学の栄養学部では井上善文という医師が静脈栄養も経腸栄養も教えているので、病院の管理栄養士として活躍しやすくなります、なんていうイメージができたら、学生が大学を選択する上でちょっとは力になるかもと思ったり。今は役割もないので、「わけのわからんおっちゃん」がうろうろしている、そんな感じ。ちょっとでも役に立ちたいので、できるだけ参加します。

↑PEN の会です。参加者が 20 人というのは非常に寂しい。私は IP エコーと PICC の指導。丁寧に、丁寧に。IP エコーの良さはわかってくれたようです。今年は、著書、PICC ナビゲータのプレゼントは無し。プレゼントしてもよかったと思いました。参加者も少なかったし、全員が IP エコーのハンズオンをしたのですから。

↑大阪大学第一外科の同窓会、汲泉会での「第一外科赤ネクタイ記念写真」です。左の澤先生だけが赤ネクタイではないのですけどね。右端の新谷教授だけが若い。あとは、みな、おじいさんという雰囲気です。確かに、おじいさんです。真ん中の川島先生は 92 歳です、お元気です。今年も、恒例の第一外科赤ネクタイの記念写真を撮ることができました。よかった。来年もこの記念写真を撮りたい！

↑オープンキャンパスです。本当、参加してくれた高校生たち、私に言わせてもらうと、至れり尽くせりです。大学としてもものすごく力が入っています。「歓迎！ようこそ千里金蘭大学へ！」という感じです。オープンキャンパスに参加している教官、そして、手伝っている学生さん、ご苦労様です。栄養学部の先生達、本当に力が入っていると感心しています。学生さん達もがんばっているね。ご苦労様！

当サイトの文章、画像の無断転載を禁じます。

小越先生：神戸で開催された、第 38 回 JSPEN の学術集会に参加したんだって？

ゼン先生：はい。会員ではないのですが、どういう雰囲気なんだろうと思いまして。

小越先生：そうか。ところで、JSPEN の日本語は日本静脈経腸栄養学会からどう変わったんだ？

ゼン先生：日本臨床栄養代謝学会です。

小越先生：そうだったな。なんか、オレは馴染めていない。

ゼン先生：もちろん私もです。ところが、また名称が変わるようです。

小越先生：え？また変わる？

ゼン先生：まだ確定ではないんでしょうが、ホームページに「学会名変更に関する方針について」として「和文名称：一般社団法人　日本栄養治療学会」「英文名称：Japanese Society for Parenteral and Enteral Nutrition Therapy」「略称：JSPEN」とする方向で進める、と記載されています。

小越先生：栄養治療学会？JSPEN＋Therapy？ちょっと違うような気がするが。

ゼン先生：私もそう思います。でも、かなり悩まれたんじゃないでしょうか。

小越先生：そうだろう。しかし、また名前が変わるのか。よくわからないが、新しい考えの方々が決めるんだから見守るしかないな。君は会員じゃないけど、なんか言いたいんじゃないか？

ゼン先生：長年日本静脈経腸栄養学会の会員として活動してきたので、いろいろ考えるところはありますが、もう会員じゃないので「いいんじゃないですか」です。

小越先生：そうだな。しかし、もう 38 回か。君が会長として神戸で開催したのは第 30 回だから、もう 8 年か。「10 年ひと昔」、もう昔の話だ。君もすっかり過去の人だな。

ゼン先生：その通りです。仕方ないことです。

小越先生：学会の感想は？

ゼン先生：久しぶりの対面での学会だったので、参加者は楽しんだのじゃないでしょうか。

小越先生：そうだろう、そうだろう。

ゼン先生：展示会場は、昔ほどは華やかではなかったように思います。大きな展示ブースを出していたのは大塚製薬工場とニュートリーだけでした。それも、例年よりブースは小さかったと思います。

小越先生：会場は賑やかだったのか？

ゼン先生：おみやげがもらえる企業展示ツアーをしていたので、結構多かったようです。

小越先生：おみやげか。君はもらったのか？

ゼン先生：いいえ。そんなツアーがあることも知らなかったので。

小越先生：ちゃんと勉強してから学会場に行かなくては。

ゼン先生：そういう情報って、昔は抄録集があったでしょう？

↑三宮のフラワーロードを歩いて、写真撮影。本当にきれいに整備されていました。やるな、神戸！

↑三宮の公園にある、左はモーツアルト像。なぜここに？何かの記念だそうです。右は、阪神大震災の時のマリーナ像。時計は、地震が起こった時に止まってしまったのです。その時刻を示しています。

↑左はボウリング発祥の地の記念碑。ボールとピンが埋まっていました。なんか、長崎にもボーリング発祥の地の碑があったように記憶しているのですが。右は、日本マラソン発祥の地の碑。これは、知っていました。

今は、すべてネットで情報を集めるんです。だから、めんどくさいので・・・。

小越先生：相変わらずだな、時代の流れに付いていけていない。

ゼン先生：そうです。すみません。参加登録は、会場の前で鹿屋の池田病院の田中さんと園田さんに会って、連れて行ってもらいました。

小越先生：ははは、そういうことか。

当サイトの文章、画像の無断転載を禁じます。

ゼン先生：はい。おじいさんですから。若い方に誘導してもらわなくてはなりません。

小越先生：学会の中身は？

ゼン先生：不真面目な参加者ですから、正確には表現できませんが。

小越先生：でも、なんか収穫はあったんだろう？

ゼン先生：収穫とはいえないと思いますが・・・。

小越先生：どういうこと？

ゼン先生：薬剤師のセッションを 1 日目と 2 日目に拝聴しました。

小越先生：どんな内容？

ゼン先生：2 日目の「静脈カテーテル感染症対策に薬剤師はどう関わるべきか」は、PPN 輸液は感染しやすいから適応を厳密にする、そんな結論になりました。

小越先生：へええ。

ゼン先生：神戸の病院の薬剤師の発表で、適応を厳密にして 80%PPN 症例を減らして感染数を減らした、ということでした。

小越先生：へええ。PPN はいらない、そんな感じだな。

ゼン先生：そうです。会場から、そんなに減らしたら栄養状態が悪くなる患者はいなかったか？と質問がありました。

小越先生：いい質問だ。

ゼン先生：しかし、それまでが不要な症例に PPN をやっていたということなので、問題ありません、そういう回答でした。

小越先生：そういうことをするから、電解質輸液だけで長期間管理して、栄養障害に陥る症例がでてくるんだよ。薬剤師として、そういうことは考えないのか？

ゼン先生：そうでしょう？先生もそう思われるでしょう？

小越先生：もちろんだ。薬剤師は、はっきり言うと、適正な栄養管理症例を増やさなくてはならないという意味では、ちょっと残念だ。自分達の仕事が減って喜んでいる？まさか、そういうことはないだろうけど。

ゼン先生：そこまで言うと言い過ぎです。でも、なんか、静脈栄養の問題点を探し出して、注意喚起をしている、そっちの方に重点が置かれているように思います。対応策を教えなくてはダメでしょう。静脈栄養の症例数は減りますよね、明らかに。

小越先生：そういうことになるな。オレもそう思う。

ゼン先生：問題点を解決しながら、積極的に静脈栄養を実施する、こういう点に注意すれば、適切な PPN が

↑神戸北公園からの神戸の景色。メリケンパークオリエンタルホテル、ホテルオークラ、神戸らしい景色です。天気も良かったし。

↑これも神戸らしい景色です。港神戸、です。神戸大橋の下から撮影しました。

↑神戸北公園から会場の国際会議場までの散歩道です。いい雰囲気です。

↑JSPEN の出店。ランチョンセミナーで弁当が食べられなかった人達のため、だったのですが、ランチョンセミナーの弁当は余ったそうです。だから、この出店の方達は困ったとのこと。私は、カレーも食べたし、から揚げも食べたし、たこ焼きも、ハーブソーセージも食べました。さらに、中島さん、林くん、松尾くんをカレーに誘いました。貢献度は大きかったと思います。

当サイトの文章、画像の無断転載を禁じます。

実施できます、そういうポジティブな仕事をしてくれたらいいんですが。ネガティブな仕事ばかりをしているように思います。

小越先生：なるほど。ネガティブな仕事か。的を射た表現だ、オレはそう思う。1 日目の薬剤師セッションはどうだったんだ？

ゼン先生：Pros and Cons でした。最初は腎不全用アミノ酸の適応について、でした。どうってことない内容だったように思います。次のセッションは、脂肪乳剤の使用に関するものでした。

小越先生：脂肪乳剤か。イントラリポスは n-6 系脂肪酸が中心だから、炎症を惹起する。使わないほうがよい、そんな内容だったんだろう。それから、重症症例ではイントラリポスは禁忌、そんな結論になったんじゃないか？

ゼン先生：その通りです。

小越先生：その内容、すぐに想像がつく。浅い発想だ。Pros and cons だろう？脂肪乳剤を積極的に使え、そっちの意見のほうが劣勢だったんじゃないか？

ゼン先生：その通りです。

小越先生：脂肪乳剤は使わないほうがよい、そういう結論になったんじゃないか？その結論でそのセッションは終わったはずだ。

ゼン先生：その通りです。しかい、そこに立ちはだかった人がいました。

小越先生：そうか。いたのか。誰だ？そんなことをする人は？

ゼン先生：そういう馬鹿は、この領域では一人だけです。

小越先生：やっぱりな。予想通りだ。井上善文というやつだな。

ゼン先生：そうです。黙っていようと思ったのですが、このままでは、脂肪乳剤は使わないほうがよい、という結論になると思ったので、この Pros and cons は脂肪乳剤を使わないようにしようという目的なのか？座長はどう考えているんだ？と責めてしまいました。

小越先生：座長は相当困っただろうな。

ゼン先生：かわいそうだとは思ったのですが。でも臨床栄養全体の流れ、ちょっと大げさかもしれませんが、それを考えると、そこは心を鬼にして、言ってしまいました。

↑企業展示会場です。結構賑わっていました。スタンプラリー効果でしょうね。大塚製薬工場のブースでオーエスワンをいただきました。そういえば、ニュートリーのブースは大きかったのに、いつももらっている「ブイクレス」はもらわなかったなあ。

↑ポスターセッションです。結構、賑わっていました。私は、単なる傍観者で、ポスターは見ませんでした。雰囲気がわかる写真を撮っただけでした。すみません。

↑神戸での JSPEN では、あまり写真を撮っていません。左は、池田病院の田中さんと園田さんのスマホで撮影。上手にスマホで写真を撮るなあ、と感心。右は、看護師さん達との写真。小川先生のスマホでの撮影でした。両方の写真で、表情が全然違う人がいる！やっぱり TPO をわきまえているのか？

小越先生：座長は誰？

ゼン先生：管理栄養士の真壁くんです。

小越先生：え？薬剤師セッションで管理栄養士が座長？おかしいだろう。

ゼン先生：そうですよ、誰が考えても。でも、そうだったんです。

小越先生：おかしい。真壁くんを選んだのは、学会長？

ゼン先生：さあ、どうなんでしょう。真壁くんは薬剤師だと思っていたんでしょうか。

小越先生：真壁くんは、君の意見に対してどう反応したんだ？

ゼン先生：脂肪乳剤は適正に使うべきだ、と言っていました。

当サイトの文章、画像の無断転載を禁じます。

↑三宮の中華料理屋さんで会食。西口先生、北出先生とは、学会だけでなくて釣りでもご一緒しているのですが、増本先生は本当に何年ぶりだったでしょうか。何年も前の時と同じ雰囲気で、いろいろ話ができました。本当に良かった。うれしい会食でした。

小越先生：まあ、そうだろう。無難なところだ。敗血症の時、脂肪乳剤は禁忌だという発言をしたのは薬剤師だろう？薬剤師は添付文書に縛られているのだから。

ゼン先生：添付文書に縛られているのは確かに薬剤師ですが、その発言をしたのは管理栄養士の宮澤くんです。

小越先生：え？宮澤？真壁も宮澤も、オレの弟子みたいなものなんだが。

ゼン先生：そうですよね。でも、今回はちょっと責めすぎたかと思ってはいるのですが。

小越先生：まあ、君の立場からしたら、仕方ないことかもしれないが。身内を責めた、そんな感じもあるな。

ゼン先生：確かに。申し訳ないという気持ちはありますが、でも、あの場では仕方ないと思って欲しいですね。

小越先生：オレに言わせてもらうと、人選が悪いし、プログラムが悪いと思うよ。

ゼン先生：そうでしょう？私としては、この JSPEN という学会のポリシーを知りたいと思いました。脂肪乳剤のセッションなんて、流れは読めます。そうすると、結論はこうなる、想像できます。脂肪乳剤を使いましょう、そういうポリシーを学会として持っていたら、そのポリシーを実現するためにはどうすればよいのか、わかるはずです。

小越先生：確かにそうだ。この問題に対する学会としてのポリシーなんてないんじゃないか？

ゼン先生：議論する、それは大事ですし、そうするべきです。しかし、議論の結果、ネガティブな結論になってはいけないでしょう。その議論の結果を、ちゃんと、理解できる参加者がどれくらいいるのでしょうか。

小越先生：おそらく、脂肪乳剤についての知識が乏しい人、脂肪乳剤についてほとんど勉強したことがない人が多いんじゃないか？

ゼン先生：そう思います。日本の脂肪乳剤は 1 種類だけ。リノール酸が多いから炎症を惹起する方向に作用する、n-3 系のαリノレン酸の含量が少ないから静脈栄養関連肝障害（PNAALD）を引き起こす、イントラリポスはダメだ、海外で使われているオメガベンや SMOF リピッドを導入しなければならない、そういう声のほうが大きいんですから。

小越先生：そうだな。

ゼン先生：イントラリポスを適正に使って、そういう問題は起こりますか？何年も使ったら PNALD は起こる症例がいる、これは、小児の領域ではほぼ確かだと思いますし、それに対して n-3 系のオメガベンが有効である、これはデータとして報告されています。しかし、1 か月や 2 か月、連日、イントラリポスを適正速度で投与して、そんな問題が起こりますか？

小越先生：そうだよな。起こっていないよ。

ゼン先生：逆に、イントラリポスを使わないことによって、脂肪肝になってしまうほうが問題です。日本全体の脂肪乳剤に対する考え方は「投与したくないけど、必須脂肪酸欠乏症になるから投与しなければならない」、その程度のレベルです。困ったことです。

小越先生：必須脂肪酸欠乏症予防が脂肪乳剤投与の一番の理由なんていうのは、もう何十年も前の考え方なのに、それから抜け出せていないんだ。脂肪乳剤の代謝についての日本人の知識レベルは、上がっていないどころか、下がっているんだ。

ゼン先生：そうです。はっきり言うと、日本で唯一の脂肪乳剤を販売している K 社にも問題があります。

小越先生：いいのか？名指しても。

ゼン先生：いいんじゃないですか？脂肪乳剤を適正に使用させて、日本の静脈栄養レベルを上げる、さらに栄養管理レベルを上げる、そういう意図があるとは思えませんから。

小越先生：そうだな。今や、K 社は臨床栄養の領域のリーディングカンパニーであることは間違いない。影響力は大きいよな。

ゼン先生：もちろんです。T 社は経腸栄養の領域から手を引いた。Y 社は気合が入っていない。静脈栄養の活性化として期待できるのは K 社だけです。脂肪乳剤に関していえば、販売しているのは K 社だけです。その K 社が、脂肪乳剤の適正な普及に力が入っていない。どうしようもないでしょう。

小越先生：君の本「脂肪乳剤ナビゲータ」は結局は「イントラリポスナビゲータ」だけど、K 社はどういう対応なんだ？

ゼン先生：添付文書に沿っていない内容が多いので、受け入れられないとのことです。

小越先生：そこでやはり添付文書なのか。

ゼン先生：はい。しかし、同じ脂肪乳剤である、鎮静剤のプロポフォールには小児など以外には禁忌はないんです。それなのに、イントラリポスには血栓症、肝障害、血液凝固障害、敗血症、呼吸障害が禁忌や慎重投与になっています。その根拠となる論文は、イントラリピッドの大量投与、しかも、50 年ほど前の論

当サイトの文章、画像の無断転載を禁じます。

文なんです。それに縛られて適正使用ができないって、おかしいでしょう。

小越先生：確かに、おかしい。それに対して K 社は動く気配はないんだろう？

ゼン先生：そんなつもりはないようです。というか、動けないんでしょう。そんなことに時間とお金を使っても、イントラリポスに対する日本の医療者の考え方からすれば、どんどん使用するようになって、使った費用を取り返せる可能性はない、と判断しているのでしょうね。私もそう思います。しかし、残念なことです。

小越先生：もちろん、K 社も営利を追求する企業なんだから、当然と言えば当然だ。

ゼン先生：それに対して、医療者がもっと脂肪乳剤を使おう、そういう活動をすればいいのですが、してないでしょう？脂肪乳剤を使おうと大きな声で言っているのは私だけかもしれません。

小越先生：ハハハ、孤独な活動になってしまっているのか？

ゼン先生：そうかもしれません。

小越先生：ということは、これからも脂肪乳剤を使用する人が増えることはないんだろう。

ゼン先生：ないでしょう。しかも、日本の医療者は、できるだけ静脈栄養はやらないほうがよい、と判断していますから。

小越先生：そうか。君が「脂肪乳剤ナビゲータ」を執筆した、その時間と気合は空回りしてしまったんだな。

ゼン先生：そうかもしれません。でも、読んでくれた人たちは、いい内容だとほめてくれています。

小越先生：ちゃんと読めば、非常に有益な本だと思うよ。でも、読んでくれないんだ。

ゼン先生：そうです。たかが脂肪乳剤。その勉強に時間と金を使う必要はないだろう、そう思っている人が大部分なんでしょう。

↑久しぶりの星薬科大学でした。戸越銀座は雨でした。昼飯は、いつものように天丼。もうお店はつぶれているかと思ったのですが、まだ、ありました。

小越先生：残念なことだ。

ゼン先生：本当に。回し読みでもいいから、読んで欲しい。そうして、脂肪乳剤を使用する意義、必要性、有効性について、理解してくれる人が一人でも多くなって欲しい、そう思っているんですけどね。

【今回のまとめ】

1. **新しい職場、千里金蘭大学栄養学部での仕事、少しは慣れたかな？そんな感じですが、講義準備で大変です。まあ、自分自身の勉強だと思ってがんばります。**
2. **千里金蘭大学のオープンキャンパスに参加してきました。大学のスタッフなので、「管理栄養士になろうとしているお子さんがいたら、千里金蘭大学栄養学部も選択肢の一つにしてください。看護学部も教育学部もあります。」と言わなくてはなりません。よろしくお願いします。**
3. **第 38 回 JSPEN に参加してきました。参加したというより、見学した、でしょうか。いろいろな方に会うことができて、楽しかったのは間違いありません。**
4. **薬剤師のカテーテル関連血流感染症に関するセッションは、ちょっと残念でした。感染予防対策をきちんと講じながら、積極的に静脈栄養を実施しよう、というポジティブな結論になって欲しかったのですが。**
5. **薬剤師のセッション：pros and cons も少し残念でした。積極的に脂肪乳剤を使いながら、適正な静脈栄養を、もっと積極的に実施しよう、というポジティブな結論になって欲しかったのですが。**

当サイトの文章、画像の無断転載を禁じます。